

平成25年度 第2回入船地区学校統合懇談会議事要旨

1 開催日時 平成25年11月11日(月) 午前10時から11時30分

2 開催場所 浦安市文化会館第1会議室

3 出席者

教育長 黒田江美子

(委員)

学校統合アドバイザー 小松郁夫氏(常葉大学大学院教授)、
入船中学校長 緒方利昭委員(会長)、入船南小学校長 鞠山誠人委員(副会長)、
入船北小学校長 手塚和真委員、入船北小学校PTA会長 山口晶子委員、
入船南小学校PTA会長 原口貴彰委員、入船南小学校PTA副会長 大下玉美委員、
入船中学校PTA副会長 中村智子委員、入船中学校学校評議員 坂上ますみ委員、
教育総務部長 米本慎一、教育総務部参事 山高智美、教育総務部次長 角田義弘、
教育総務部次長(教育政策課長) 鈴木忠吉

(事務局)

学務課長 佐藤伸彦、学務課長補佐 鈴木孝一、教育政策課長補佐 船橋紀美江
教育政策課主査 佐藤克文、教育政策課主任主事 小倉隆志

4 議題

・これまでの経緯

入船地区学校統合に伴う施設の改修、美浜北小学校への就学、学校統合に向けた準備

・新しい小学校における「魅力ある学校づくり」について

5 資料

(当日配付)

・新しい小学校における魅力ある学校づくりと条件整備(案)

6 会議経過

(1)事務局の説明

①入船地区学校統合に伴う施設の改修について

施設に改修については、主に次の点において予算編成等の要望をしている。

1点目として、入船地区学校統合を進めるにあたっては、入船中学校も一体となって考えていくことから中学校と合わせた改修を行う。

2点目として、小中学校をつなぐ渡り廊下の設置、小中学校のエレベーター、小学校の特別支援教室の設置について計画をしている。

3点目として、以前、小学校5、6年生の教室は入船中学校側にという計画があったが、その後皆様のご要望を受け、検討した結果、小学校側に5、6年生の教室も置く。これに伴

い、小学校側に増築棟を設置する計画で進めている。

4点目として、放課後異年齢教室の設置についてもご要望があったため検討した結果、設置する予定で進めている。

なお、施設の改修に伴い、入船南小学校と入船中学校の間を通る道について、市道の認定をはずし、学校の管理下におくという方向で計画を進めている。ただし、近隣の住民の皆様にはこれまで通り利用することが可能になるようにしたい。

②美浜北小学校への就学について

学校統合に際し、現状では入船北小学校から美浜北小学校への就学を希望する児童もみられるということから、美浜北小学校の教室等の整備の参考とするために入船北小学校の1年生から4年生を対象に現時点での美浜北小学校への就学の可能性を聞く調査を10月に実施した。

平成27年度の学校統合時に実際に就学する学校については、来年度10月ごろ調整して決定する予定。

③学校統合に向けた準備について

学校統合にあたっては、入船北小学校と入船南小学校それぞれの教育課程や生活時程、生活規律、使っている教材等について、27年度の統合時にどちらかの小学校にこれらを合わせるのではなく、新しい小学校のものを編成していく。

現時点では、すでに両校で生活規律のすり合わせを行っているものもある。

委員： 渡り廊下の設置はどのようなになるのか。

事務局： 入船中学校の技術棟を貫通させ、入船南小学校と入船中学校を直線でつなぎ、靴を履き変えずに行き来できるようにしたいと考えている。

委員： 就学希望調査の結果について、教育委員会としてこの結果をどうとらえているのか。

事務局： 調査は、受け入れ側の教室が足りるかという懸念から行った。

統合に対しての計画とは全く別に考えているので、入船での統合で進める内容は変わってくることはない。一時的な統合時の子どもの移動であって、その後は入船学区として新小学校の学区ができるのだから、計画にあまり影響はないと考えている。

委員： たとえば兄弟が美浜北小学校に入っている場合やすでに美浜の幼稚園に行っている場合については、配慮しますとのことだったが、長いスパンで考えなくてはいけない話だと思う。美浜北小学校に行く人たちは、美浜中学校に行くと思うがその辺の対応は考えているのか。

事務局： 現状でも、特別な理由があれば、学区以外の学校に就学できるようになっている。その中で兄弟関係は理由として認められている。現状として、入船北小学校の学区から入船南小学校へ、42名の学区外就学があるので、入船南小学校は増えていくような状況にある。今川地区もあり、新しい小学校も安定していくのではないかと考えている。

(2) 新しい小学校における魅力ある学校づくりについて

会長： 新しい小学校における魅力ある学校づくりについては、これまでの経緯等について委員のからの情報もいただきながら進めていきたい。

①学校間の交流について

委員： 児童の交流について、10月8日に合同で学校保健委員会を行い、5年生対象の性教育を保護者の方々も一緒に参観した。現在、4年生が交流を行っている。10月27日に入船中学校を中心に入船地区の美化活動を行った。今後は2月に6年生の雅楽の体験を一緒に行っていく予定である。

教職員は毎回、校内研究等で授業参観を行っている。11月15日に理科の研究会は本校の職員も参観する。

8月には教職員の情報交換を行った。

委員： 理科だけでなく入船中学校と入船南小学校の教職員が授業を見合ったり、中学校の先生が小学校の授業をしたり、逆に小学校の先生が中学校に来たりという回数が増えている。道徳の授業を入船中学校の道徳推進教諭が入船南小学校に行き授業を展開するなど、工夫して行っている。今後、体育、音楽、などでも行っていきたいと考えている。

入船英語教室IECというのを立ち上げ、6年生から中学校1年生を交え、英語活動を中心に進める授業を11月20日から2月まで全部で10回ほど行う予定である。

3月23日に高洲も含めた地域文化祭を実施したいと考えている。

委員： 第2回の保護者の交流を実施したいと計画している。12月3日に、ブリザーブドフラワーを作りたいと考えている。

②提言書の提出について

委員： 入船北小学校、入船南小学校両校の校長にも入っていただき、提言としてまとめたものである。

ハード面については、多目的スペースやビオトープの整備、電子黒板や図書館に関すること。ソフト面も教員の配置等、市の支援がないと難しいもの。

多くの予算が必要なもの、公立の小学校であることを考慮する必要があるが、浦安市が統合を保護者の意見も聞きながら円滑に行っていくという思いは教育委員会の方も持っていると思う。書かれている項目を少しでも実現していただき、魅力ある学校づくりをアピールしていただき、入船北小学校の保護者の皆様の理解を得られるとよい。

③新しい小学校における魅力ある学校づくりと条件整備（案）について

事務局： これまでいただいたご意見や提言書、入船地区学校統合の趣旨、また、今後、浦安市教育委員会が目指す教育の方向性等を総合的にふまえ、提案する。

新しい学校づくりにおける3つのコンセプトは「併設を生かした1小1中の小中連携・一貫教育推進校」、「豊かな交流を重視した学校づくり」、「入船北小学校・入船南小学校、それぞれの良さを受け継いだ新しい学校づくり」である。

「小中連携・一貫教育の推進校」については、小中連携・一貫を生かした学力向上を目指す。特に、小中の学びの連続性を重視した外国語と理科教育の充実を図る。具体的には外国語ルームの設置や小中学校で理科室を共有し、理科教育の充実に努めていきたいと考えている。

「豊かな交流」については、園児や児童生徒の交流活動の充実に加え、地域の皆様との交流活動等が考えられる。

「両校の良さを受け継いだ新しい学校づくり」については、両校においてさまざま特色が打ち出されているので、これらの良さを踏襲しながら新しい学校づくりの中に引き継いでいき発展的、創造的につなげていけたらと考えている。

こうした学校づくりについては、具体的には学校長を中心として学校が主体となって取り組んでいくことである。

行政の支援については、今後予算の決定、議会等があるため、検討中の案として、この方向で進めているということをご理解いただければと思う。

委員： 今週11月15日（金）に入船南小学校と入船中学校を会場として、千葉県の理科教育研究会の研究発表大会が行われる。県下で初めて生活科から小学校の理科、中学校の理科と小学校の1年生から6年生、中学校の1年生から3年生が、あえて連携を考えながら授業をしている。小学校で楽しい理科の学習をめざして進め、中学校では学びの系統性・連続性を考えながら思考力・表現力を高めていく授業展開を工夫していく。今後も様々な教科や行事等で連携できればと考えている。

委員： 小学校も中学校も学びの連続性ということを非常に大事にした取り組みが始まっているところではないかと感じている。次年度以降もそういう点を大事にした理科の取り組みや、理科に限らず小中の連携ということについて、しっかりと視点を置いて授業に取り組んでいきたいと考えている。

また社会人の活用や外部講師等を招いた学習活動を年間計画の中に積極的に取り入れて、授業をしていきたいと考えている。学区内にも専門的な知識をお持ちの方もいらっしゃるのので、年間計画の中に落とし込みながら進めていきたいと考えている。

委員： 昨年度からこの懇談会をやっている中で、今回行政からの支援ということで、案が出せたことは昨年度と比べて大きく違うところだと思う。

委員： 先ほどの事務局の説明から、(提言書の) かなり多くの部分をカバーいただいているというのが率直な感想である。ただ、IT系については公立の小学校では導入に限界があるのかもしれない。

委員： IT系については、今可能性を探っているところであり、3月になればはっきりしたお答えができるかと思う。

委員： ぜひお願いしたいのは、保護者、特に入船北小学校の保護者に対して、コミュニケーションの順番というものを意識されたほうがよいと思う。市教育委員会としてがんばっているというコミュニケーションをいかにやれるかということが、最終的に今の統合を円滑に進めていく上でのカギだと思う。当然、これを実現させるということが大切であるが、こんなにがんばっていることをだれも知らずだともったいない。

事務局： 新しい学校づくりにおけるこれからのアピールというものが、大きな課題であると考えている。ホームページだけでなく、広く懇談会便り等で知っていただけるよう、努力をしていきたいと考えている。

委員： 広くホームページに公開することで、ぜひ入船の小学校に行きたいという人が増えた場合、今の学区の考え方を説明していただきたい。

事務局： 本市では基本的に住所地での学区ということになっているので、新しい小学校の学区については、入船地区ということになっている。ただ本市では小規模学校選択制というものもあり、小規模の学校については適正な規模ということも考えて、市内から受け入れもするというになっている。

今後、学校の規模、キャパシティがあるので、それを見ながら選択制については考えていく必要があると思う。

学校統合アドバイザーの助言

公立学校は、どこに行っても同じ公立学校という時代から校長先生や地域の方々と一緒になって、その学校や地域にあった学校づくりを認めていこうということが、大きな流れとして出てきている。

市教育委員会はこの学校だけ人も予算もつぎ込むわけにはいかないし、同じ市立学校としてできるだけ公平に、しかし、少し特色を出していくべきだと思う。設置者である行政と、学校と、さらには保護者・地域の人、特に保護者・地域の人とが自分たちの子どもたちが通っている地域の学校のよさをどうつくるか、もっとかかわってほしいし、かかわっていくべきであると考えている。

そういう意味で、先ほどの提言書というのは、単なる要望書という古いタイプではなく、これをきっかけとして、保護者同士が議論をしたり、保護者と学校の先生が議論をしたりと

いうきっかけとなるものだと思う。

小中連携・一貫教育をやることをとおして、実は学校が今までの取組を振り返って新しい教育をするきっかけになるものである。浦安の中で新しくできる学校ということは、生まれ変わるというか、もっと魅力があるものにするというチャンスになる。

なかなか変わりたいと思っても変わりにくい、変えたいと思っても変えられない教材とか授業とか、お互いに知恵を出し合っていくとよい。幸い教育委員会もかかわって考えてくださっているわけだから、浦安の地域の模範型のようになる。なかなか難しい予算の話を含めて、教育委員会が今回がんばって、予算をとるために動いてくださっていると聞いている。

中身のことでいうと、ほぼ新しい教育の中で目玉になりそうなものが入っていると思う。ひとつは、外国語。これはほぼ間違いなく、次の学習指導要領の改訂では小学校から英語が教科として入ってくると思う。

今度の学習指導要領のひとつの目玉になる、学びの連続性・発展性ということについて、先生方にとって飛躍のきっかけになると思う。

I C T教育については、もともと浦安はできる素地はあると思う。国際都市で、若い人も多い。最終的には先生方が新しい教育の内容と方法に挑戦をして授業の見直しに取り組んでほしい。

そのためには一定程度の人数のいる学校にしていくことが大事である。複数のクラスがあって、同じ学年の先生同士の交流ができるなど、適正規模は大事だと思う。一見大変だと思うが、新しい学校づくりに向かうエネルギーは絶対子どもたちに移っていくと思う。クラスが増えて友達も増えて大変ということもあるが、だからこそ必要である。

最終的には新しい学校の中に、「創造」ということがあって、学校、家庭、地域でつくる魅力的な学校とあるように。これこそが21世紀の新しい学校であると思う。